

平成 28 年度 乗馬等を通じた被災地支援（馬とのふれあい）事業  
活動報告書

活動報告①陸前高田まきばっこフレンドリーホース

活動報告②馬とふれあおう in もりおか町家物語館

活動報告③十和田ポニーライダー合宿

活動報告④櫛引八幡宮やぶさめ・乗馬体験会

活動報告⑤仙台・女川ハートオブカントリー牧場ステイ

平成 29 年 1 月 17 日

十和田乗馬倶楽部

## ① 事業名：陸前高田まきばっこフレンドリーホース事業

実施期日：平成 28 年 6 月 26 日

主催者名：任意団体あゆっこ応援団

共催者名：岩手県陸前高田市

実施場所：冒険遊び場「まきばっこ」（岩手県陸前高田市広田町黒崎 黒崎公民館向い）

実施事業内容：引き馬、えさやり、レザークラフト、馬の絵画、馬の勉強

形態：現地訪問型

参加者：166 名（子ども 140 名、大人 26 名）

スタッフ：22 名（有資格指導者 1、取扱者 9、ボランティア 12）

使用馬匹：6 頭

アンケート結果：

### 1) 参加者・共催者等からの本事業に対する感想について

- ・馬が来るのは毎年楽しみにしてます。今年も来てくれてうれしい。
- ・馬は怖いなあ、でもかわいい。
- ・十和田からたくさんの方がボランティアできてくれた ありがとう
- ・全部の馬に乗れた チャレンジできた
- ・馬と一緒に歩く人は面白い 楽しい
- ・レザークラフトは集中できていいですね。
- ・スポ少で来れない友達が、馬に乗りたいと言っていた
- ・何回も乗っても楽しい
- ・息子（年長クラス）が馬に乗れて喜んでいて
- ・言うことを聞かない馬がいたみたい。でもお兄さんが、その馬に乗って遊び場の中を走っていた。馬は早いんだ。

### 2) 参加者・共催者等からの本事業に対する意見・提案・要望等について

・「仙台や東京に行けなくても、ここ（陸前高田）で楽しい思い出が作れるよ」そんな気持ちで運営してます。ゲーム遊びでなく、生き物に触れ合える！ しかも馬！ 滅多に見れないよ。なんて素晴らしいことでしょう。

・両親を津波で亡くした兄弟。今回も来れなかったな。車がないと来れないからね。電車もバスもここまでは無いからね。いつか馬に乗せてあげたいな。

・毎年、十和田から遠路はるばるお越しになってありがとうございます。こどもを見ていると楽しみにしていたんだなと強く感じます。馬を怖がる子が少なくなりました。

きっと馬をかわいいと思っています。

事業の効果・評価：

陸前高田市は5年連続で事業を続けている開催地であり、主催者・参加者・ボランティアもお互い顔見知りになっている人も多く、毎年来るのを楽しみにしており、昼食の炊き出しをしてくれるなど、終始なごやかな雰囲気の中行うことができた。

今年度は、引き馬やエサやりの他、馬の勉強プログラムとして、実際の馬を見せながら体の構造や性質を学ぶコーナーを常時実施した。子ども一人ひとりに対し、密度の濃い馬とのコミュニケーションを図ることができた。

また、写真撮影パネルも用意し、参加者が写真をインターネットや SNS などのツールを使って、本事業の情報発信を行ってもらえる仕組みづくりにも努めた。



引き馬乗馬体験



にんじんエサやり体験



レザークラフト・馬の絵画



馬の勉強

## ② 事業名：馬とふれあおう in もりおか町家物語館

実施期日：平成 28 年 7 月 30 日

主催者名：特定非営利活動法人いわてアートサポートセンター

共催者名：もりおか復興支援センター、九戸城流鏑馬実行委員会

実施場所：もりおか町家物語館（岩手県盛岡市鉾屋町 10-7）

実施事業内容：引き馬、えさやり、レザークラフト、馬の絵画、馬の勉強、カンバッチ作り

形態：現地訪問型

参加者：140 名（子ども 110 名、大人 30 名）

スタッフ：14 名（有資格指導者 2、取扱者 6、ボランティア 6）

使用馬匹：4 頭

アンケート結果：

### 1) 参加者・共催者等からの本事業に対する感想について

- ・普段、市内では馬を見ることがないので新鮮でした。
- ・動物を使った催しを行うことは初めてだったが、事前に打合せや活動の様子を視察させてもらったので助かった。
- ・乗馬の他にも親子が楽しめるプログラム（レザークラフトなど）を実施してもらえてよかった。また、イベントの参考にもなった。

### 2) 参加者・共催者等からの本事業に対する意見・提案・要望等について

- ・イベントの告知のためのチラシ作りを協力いただけて助かりました。
- ・職員も乗せていただきありがとうございました。

事業の効果・評価：

盛岡市において、被災者の支援を行っている「もりおか復興支援センター」を通じ、市内在住の被災者および周辺小学校へイベントの開催を通知した。

当日は、気温 30 度を超える環境下に備え、熱中症予防のための飲料および塩飴を振舞いながら行った。その他、音響スピーカー・マイクを活用し、イベントの来場者をスムーズに誘導することができた。

夏休み時期の小中学生を中心にボランティアを集め、市街地にありながら伝統的な町家建築が多く見られる会場周辺の街歩きや施設見学も行い、社会見学的としての活動にもなった。



引き馬乗馬体験



にんじんエサやり体験



レザークラフト



馬の勉強

### ③ 事業名：十和田ポニーライダー合宿

実施期日：平成 28 年 8 月 8 日

主催者名：NPO 法人みんな地球の子どもじゃん

共催者名：福島県伊達市「神愛幼稚園」、pray for the EARTH

実施場所：十和田乗馬倶楽部

実施事業内容：引き馬、馬の勉強、えさやり、レザークラフト、ポニーライダー技能指導、馬の絵画

形態：乗馬施設招致型

参加者：23 名（子ども 13 名、大人 10 名）

スタッフ：10 名（有資格者 2、取扱者 8、ボランティア 4）

使用馬匹：6 頭

アンケート結果：

#### 1) 参加者・共催者等からの本事業に対する感想について

- ・乗馬を楽しみにしている方が毎年繰り返し参加してくれた事がうれしく思います。
- ・子どもたちが馬に触れ、遊ぶ姿を笑顔で見守るお母さん方の姿が何より印象に残ります。

#### 2) 参加者・共催者等からの本事業に対する意見・提案・要望等について

チームに別れてプログラムが組まれており、より一層楽しく馬を身近に感じていただけたと思います。来年もステップアップした子ども達の姿を見せたいと思います。

事業の効果・評価：

・騎乗だけではなく手入れや清掃などもできるポニーライダー検定項目を活用した乗馬クラブの環境を有効に使い、屋外活動に制限のある福島県の子どもたちに濃密な馬とのふれあいを提供することができた。

・3年連続、2年連続、初めてくる参加者をポニーライダーの検定級ごとに、グループ分けすることでバランスのとれたプログラムを行うことができた。

・夏休み中の学生ボランティアが多く集まり、十和田と福島の地域交流にもつながった。



乗馬体験（ポニーライダー）



手入れ・ふれあい



牧場作業体験



馬の勉強

#### ④ 事業名：櫛引八幡宮やぶさめ・乗馬体験会

実施期日：平成 28 年 8 月 18 日

主催者名：全国スポーツ流鏝馬八戸大会実行委員会

共催者名：櫛引八幡宮、八戸市、八戸工業大学

実施場所：櫛引八幡宮（青森県八戸市八幡丁 3）

実施事業内容：引き馬、えさやり、レザークラフト、馬の絵画、弓矢体験

形態：現地訪問型

参加者：152 名（子ども 124 名、大人 28 名）

スタッフ：24 名（有資格者 2、取扱者 3、ボランティア 12）

使用馬匹：6 頭

アンケート結果：

##### 1) 参加者・共催者等からの本事業に対する感想について

- ・この事業があったことでイベントを開催することができました。
- ・子どもたちが馬を身近に感じることができる良い機会となりました。
- ・神社にとっても夏は来訪者が少ない時期なので、今後もこのような催しができると良い。

##### 2) 参加者・共催者等からの本事業に対する意見・提案・要望等について

- ・来場者を募ることも大変なので、集客に活用できる予算もあれば嬉しい
- ・次年度以降もイベントを継続していきたいので、これからも続いて欲しい。

事業の効果・評価：

- ・本事業と並行して、流鏝馬イベント開催も進めながらの実施をし、八戸市では初のスポーツ流鏝馬競技イベントということもあり、イベントは新聞等でも告知され、当日も来場者 1000 人近くが訪れた。
- ・八戸工業大学感性デザイン学科や、櫛引八幡宮とその周辺住民とも連携し、乗馬体験以外にも様々な出店コーナーが行われた。
- ・弓体験などイベントの流鏝馬に関連したメニューも実施し、競技大会を見た来場者が関心を示し多く集まった。
- ・イベント観覧をきっかけに乗馬を始めてみたいという声もあり、本事業の進め方が乗馬人口拡大においても効果的に実施できたと思う。



引き馬乗馬体験



弓矢体験



馬の絵画



流鏝馬イベント

## ⑤ 事業名：仙台・女川ハートオブカントリー牧場ステイ

実施期日：平成 27 年 11 月 7・8 日

主催者名：ハートオブカントリー仙台代表額田弘美

共催者名：Zance 女川組、女川町スポーツ推進委員、女川町青少年勤労センター

実施場所：十和田乗馬倶楽部

実施事業内容：引き馬、ホーストレッキング、えさやり、レザークラフト、カンバッチづくり、馬の（事前）勉強、カントリーダンス教室、アウトドア料理体験

形態：乗馬施設招致型

参加者：13 名（子ども 0 名、大人 13 名）

スタッフ：12 名（有資格者 2、取扱者 8、ボランティア 2）

使用馬匹：6 頭

アンケート結果：

1) 参加者・共催者等からの本事業に対する感想について

・甚大な津波被害のあった女川町での日常を離れ、自然豊かな牧場で乗馬をしたり、馬とふれあったりすることでとてもリラックスできた。

2) 参加者・共催者等からの本事業に対する意見・提案・要望等について

・このような機会を作っていただきありがとうございました。支援があることで実現できることもたくさんあります。ぜひ今後も継続していただけることを期待します。

事業の効果・評価：

・宮城県仙台市と女川町からの主婦層をメインに、被災地での日常を離れ、乗馬クラブ（牧場）での 1 日をゆっくりと過ごす旅行ツアーを主催者が計画。女川町スポーツ推進委員・青少年勤労センターの協力により、旅行の行程を組んで十和田を訪れた。

・片道 4 時間の移動時間を有意義に使えるよう、マイクロバスの中で事前に作成したオリジナル乗馬テキストを配布し、DVD を放映。牧場の案内や騎乗前の注意事項・説明を伝えることができ、現場での実施をスムーズに行うことができた。

・乗馬以外でも屋外で楽しめるアウトドア料理体験やカントリーダンスによる準備運動の他、施設内で実施できるレザークラフトやカンバッチづくりなど多様なプログラムを行い、終始笑顔の絶えない事業となった。

・参加者の中には仙台市の海側に住んでいる方も多く、震災時には自宅が津波被害にあったり、親族内に被災者がいたりと様々な背景があり、これまであまり外出したりすることのなかった方が、本事業をきっかけに、外に出てサークル活動を楽しむようになったとの効果が伺えた。



乗馬体験



ホーストレッキング



アウトドア料理体験



カントリーダンス教室

## 事業実施方法の特徴

### ・馬の勉強

馬の勉強プログラムとして、勉強用パネルを作成し実際の馬を見せながら体の構造や性質を学ぶコーナーを常時実施した。子ども一人ひとりに対し、密度の濃い馬とのコミュニケーションを図ることができた。

### ・安全対策等

乗馬施設招致型の事業では、片道 4 時間の移動時間を有意義に使えるよう、マイクロバスの中で事前に作成したオリジナル乗馬テキストを配布し、DVD も放映。牧場の案内や騎乗前の注意事項・説明を伝えることができ、現場での実施をスムーズに行うことができた。

真夏の実施時には、熱中症予防のための飲料および塩飴を振舞いながら行った。

### ・イベント演出

写真撮影パネルも用意し、参加者が写真をインターネットや SNS などのツールを使って、本事業の情報発信を行ってもらえる仕組みづくりにも努めた。

音響スピーカー・マイクを活用し、イベントの来場者をスムーズに誘導することができた。馬の名刺、レザークラフトやカンバッチ作りによる記念品を参加者に残した。

### ・ポニーライダー認定活用

毎年継続して参加する子どもに対しては、ポニーライダー検定の内容を活用することで、うまく段階を踏んで成長させることができている。

### ・流鏝馬の活用

並行して流鏝馬イベント開催も進めながらの実施をし、八戸市では初のスポーツ流鏝馬競技イベントということもあり、イベントは新聞等でも告知され、当日も来場者 1000 人近くが訪れた。

弓体験などイベントの流鏝馬に関連したメニュー提供も行い、本事業をきっかけにクラブに来る人もいた。

### ・施設の有効活用

乗馬施設招致型においては、周辺のトレッキング、厩舎を使っての牧場作業体験、バーベキューコーナーを使ってのアウトドア料理体験などの広大な牧場を活用したメニュー提供を行った。

## 所感

### ■事務局より

2011年から本事業を継続して13箇所・23回の実施を行ってきた。

イベント実施における重要な要素である会場準備・集客などは、受入主催者の力によるところが大きい当社にとっては地域とのつながりも薄く、かつ遠方にある主催者への十分なサポートは困難であった。

未経験の主催者に対し、馬を活用した事業確立まで一緒に作り上げていくには、年一回の活動だけでは難しかった。

5年連続で続けてきた、陸前高田も次年度は、受入主催者スタッフの高齢化・組織力の弱体化、移住・卒業等による地域児童の減少等の理由により開催は行わない予定である。本事業（無料で馬が来るから）をきっかけにイベントづくりを行っても、金銭面等将来的な継続ができないことを感じた。

それとは逆に、最初から別の事業の企画をしているところとの連携はスムーズである。福島ポニーライダーや仙台・女川はもともと、青森への旅行を計画している。

八戸・櫛引八幡宮での事業は、当社の経営方針（流鏝馬）に合った形での運営ができたので、将来発展が期待できる。

### ■クラブオーナーより

（資料）青森県観光連盟の統計

平成22年の青森県では、東北新幹線全線開通という背景もあり51,609千人の集客が出ている。翌年の東日本大震災により、観光客は31,543千人まで落込み、青森県内でも倒産企業が出るなど不安定な時だった。その後、国の政策等の後押しがあり、平成27年では35,219千人まで回復している。とは言え、震災前までのような観光客数には程遠い状況である。

（青森県観光連盟発表）

## 1 観光入込客数の推移

(単位：千人)

区分	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	対前年比
延べ人数	31,543	32,954	33,174	33,961	35,219	103.7%
実人数	13,297	13,888	13,266	14,970	14,739	98.5%
日帰り客	9,879	10,279	8,944	10,840	10,300	95.0%
宿泊客	3,418	3,609	4,322	4,130	4,439	107.5%
宿泊客割合	25.7%	26.0%	32.6%	27.6%	30.1%	
県内客	8,308	8,412	7,958	9,035	8,398	92.9%
県外客	4,989	5,476	5,308	5,935	6,341	106.8%
県外客割合	37.5%	39.4%	40.0%	39.6%	43.0%	
(参考) 冬季観光客	3,806	4,274	4,239	4,466	4,126	92.4%

※ 実人数は、「観光入込客統計に関する共通基準」に基づき算出した推計値。

※ (参考) 冬季観光客は、平成27年1月～3月及び11月～12月の合計値。

十和田乗馬倶楽部では、平成23・24年に県や自治体などが企画した、福島の子供や家族を夏休み中に青森に受け入れるキャンプなどの直接的な支援を行い、馬と共に自然と遊ぶ機会および馬を通じた地域コミュニティ形成のお手伝いをしてきた。

しかし、平成25年頃からは、被災地でどのように生活をするか悩んでいた方々が、自立生活する為、生活拠点を変えたり、移動先での安定した生活を作れるようになってきたりや変化してきた。その際、やはり、震災後どのように地域との連携を作るか、今後どのように生活していくか悩んでいた方々から、『馬が来る』という事だけで色々な人と連携を『楽しく』組み立てる事が出来た。」と涙ながらに手を握られ、「お陰で新拠点地でも頑張れます。」と言われたことは強く印象に残っている。

この言葉から、被災者と言われる人達は、それぞれに何かを抱えながらも、次なるステップへ踏み出して行った事も確認できた。

平成26年からは、この被災地支援に対する考え方を、事業(支援)終了後も主催者が継続できる仕組みづくりのサポートも合わせて行うようにした。馬を活用した被災地でのイベント作りを通し、観光客誘客に繋げる形へ変更。

- 1) 被災者の方々へ、旅行企画を提供、青森県満喫プラン・・・(福島ポニーライダーに付け加え、女川・仙台の実施)
- 2) 被災地八戸でのふれあい体験会+流鏝馬イベント

この事業実施により、主催者に対し企画提案し、県内外へ馬を使ったプランをアピールする事で、交流人口が増え、地域の活力が湧いてくるように感じた。

次年度計画では、移住先で将来馬を所有し、交流の場を作りたいと考えているNPOとの連携実施企画を調整中である。

これまでの状況を直接現場で感じるにつけ、それぞれの地域で『馬』は大変珍しく、貴重な存在だとつくづく実感できた。

「馬が来る。」それだけでコミュニティができ、避難所だった公園が公園へと生き返り、子供たちが遊び、より多くの遊び場を作ろうと大人が奮闘し、来場した人達は大自然の中で遠慮なく大声で笑う。

そのような、馬の持つエネルギーを使い、今後は、自立生活した人達が、旅行などでちょっとした気分転換を提供するような交流人口を増やし、地域の活力を作り震災で激減した観光客誘客の一助になれるようこの、被災地支援は活用していきたいと考える。

■ 十和田・奥入瀬サマーキッズキャンパス実行委員会事務局 十和田湖国立公園協会より  
(2011 から 2013 実施事業)